

多機能型デジタル温湿度計 SN-907

標準価格 ¥ 3,800 ¥ 4,180(税込)
JANコード 4582394450976

「食中毒、熱中症、インフルエンザ」防止対策に！

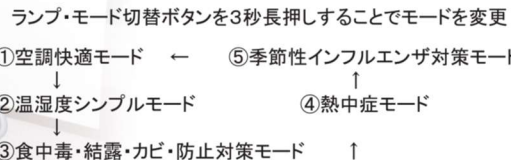


1台5役「見える化」で簡単環境管理

- 温度・露点温度・快適温湿度・相対湿度・絶対湿度の表示
- 熱中症対策に(WBGT基準を簡易的に算出、表示)
- 食中毒防止に(露点温度を表示)
- インフルエンザの予防目安に(絶対湿度を表示)
- 壁掛けまたは卓上に設置が可能

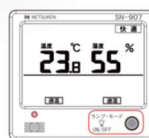
測 温 素 子	温度:サーミスタ 湿度:高分子抵抗
測 定 範 囲	温度: -10.0~+50.0℃ 湿度: 20~90%Rh
測 定 精 度	温度: ±1.0℃・・・-10.0~+40.0℃ ±1.5℃・・・+40.1~+50.0℃
	湿度(常温時) ± 5%Rh・・・35~85%Rh ± 10%Rh・・・20~34%Rh, 86~90%Rh
寸 法 ・ 材 質	約W114×H100×D21mm・ABS樹脂
電 源 ・ 質 量	単3乾電池×1個(動作確認用)・約135g(電池含)

●使用目的に合わせたモード切り替えができます。



① 空調快適モード

適温・適湿の範囲内では「快適」マークを表示



冷房	・・・ 28.1℃以上
適温	・・・ 18.0~28.0℃
暖房	・・・ 17.9℃以下
除湿	・・・ 66%以上
適湿	・・・ 45~65%
加湿	・・・ 44%以下

② 温湿度シンプルモード

温度と湿度を表示



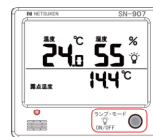
美術館、博物館、工場や倉庫、ビニールハウスやきのこ栽培室などの環境測定に最適です。

クール&ウォームビズ
政府の提唱している省エネ温度は夏は28℃、冬は18~20℃です。

ビル管理法	相対湿度 40%~70%
学校環境衛生の基準	相対湿度 30%~70%が望ましい

③ 「食中毒・結露・カビ」防止対策モード

調理場は温度25℃以下、湿度80%以下に保つこと



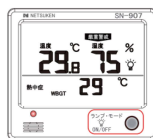
食品衛生管理において、仕入段階からの温湿度管理が必要です。高温・多湿は食中毒の原因となる菌の増殖に好適な環境となります。食中毒の発生原因は殆どが各種細菌によるもので、発生2日前の温度・湿度が大きく関係します。

結露により、カビやダニが育ちやすくアレルギーとなります。内壁が結露するとカビが発生し、その胞子が充満しアレルギーとなります。又、ダニもカビを餌として増殖し、アトピー性皮膚炎・喘息のアレルギーを引き起こす原因(アレルギー)となります。

アラーム	・温度 25℃、湿度 70% 以上になるとアラームランプが点滅(黄色)
	・温度 25℃、湿度 80% 以上になるとアラームランプが点滅(赤色)

④ 熱中症対策モード

日常生活における熱中症予防指針
(出典:日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」)



温度と相対湿度の関係から算出した暑さ指数(WBGT)に基づいて、熱中症の注意レベルが「嚴重警戒」「危険」に達した場合、指標とLEDランプで表示します。
※WBGT(単位:℃)は一般的な気温とは異なります。

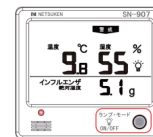
室内用熱中症対策の目安を4段階の文字表示

アラーム	・熱中症指数が 28℃ 以上になるとアラームランプが点滅(黄色)
	・熱中症指数が 31℃ 以上になるとアラームランプが点滅(赤色)

温度基準(WBGT)	注意すべき生活活動の目安	日常生活における注意事項
危険(31℃以上)	全ての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発症の危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒(28~31℃)	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	
警戒(25~28℃)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的な十分な休息をとる。
注意(25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発症する危険性がある。

⑤ 季節性インフルエンザ対策モード

《絶対湿度とウィルスとの関連》



厚労省は、冬のインフルエンザ予防には、室内の湿度を加湿器などを使って湿度(相対湿度)を50~60%に保つことを推奨しています。

季節性インフルエンザの流行には絶対湿度(P32)が関係しているとした仙台市在任の庄司眞医師の論文を参考に、「低温で空気が非常に乾燥した環境」となった場合、指標やLEDで表示します。

季節性インフルエンザ対策の目安を3段階の文字表示

アラーム	・絶対湿度が7g/m³以下になるとアラームランプが点滅(赤色)
------	---------------------------------

感染防止の目安	絶対湿度	乾燥状態	空気の乾燥状態と季節性インフルエンザの流行
警戒	7g/m³以下	非常に乾燥	空気がとくに乾燥し、季節性インフルエンザの流行になりやすい環境
注意	7g/m³~11g/m³	乾燥	空気が乾燥してきて季節性インフルエンザが流行してもおこしにくい環境
ほぼ安全	11g/m³を超える	潤湿	空気が潤っていて、季節性インフルエンザが流行しにくい環境

財団法人宮城県地域医療情報センター 11P
全国インフルエンザ流行予測より引用